

事務局

〒289-1732 千葉県山武郡横芝光町横芝1519-6
TEL 0479-80-1177 FAX 0479-80-1178
第2790地区ガバナー 青木貞雄 第6分区ガバナー補佐 河野知宏

昭和41年10月6日創立 / 昭和41年11月21日承認

例会日時 毎週木曜 12:30 点鐘

(最終例会 18:30 点鐘)

例会場 中国ダイニング富士屋

URL <http://www.narita-airport-m-rc.jp>

E-mail info@narita-airport-m-rc.jp

平成28年10月27日発行 NO.2161 第2314例会 会長 渡邊孝文 幹事 市原豊彦 会報委員長 上原 広嗣

例会報告(平成28年10月20日)

会長挨拶

点 鐘 会 長 渡邊孝文
ソ ン グ 「我らの生業」
唱 和 「四つのテスト」
会長挨拶 会 長 渡邊孝文
幹事報告 幹 事 市原豊彦
プログラム

本日のお客様

地区米山記念奨学会委員長 富 一美様

米山記念奨学生 キム・スビン君

銚子RC (カウンセラー) 松本恭一様

各委員会報告

卓話 (奨学生 キム・スビン君)

「結婚祝」

ご子息のご結婚おめでとうございます



富会員 / 渡邊会長



私事ですが、今日からこのスタイルで行きます。40年間の重しが取れたようでスッキリしています。どうぞお間違えの無いように。会長の渡邊です。

本日は米山記念奨学生のキム・スビンさんをお招きしております。ようこそいらっしゃいました。会員一同歓迎しております。後程、卓話をよろしくお願い致します。

我がクラブにも米山奨学生のペンピモンさんがいますが、海外の若者を支援することにより相互の国を理解して、この小さな一歩から世界平和の芽を育てていく事が大切だと思います。争いというものはお互いを知らないから、また自分の事だけを主張しすぎるから起こる事だと思います。ロータリーにある素晴らしい考え方に基づく米山奨学会をさらに育てていこうではありませんか。大先輩の椎名鎌一郎会員から”まだまだ皆さんと一緒にやりたいからよろしく”という連絡がありました。大変うれしく思っています。こちらこそよろしくです。

11/6の少年野球教室の概要がほぼ決まりました。篠塚選手、水野選手、原田選手を迎えてという事になりました。齋藤会員の読売新聞との共同事業ですが、全員参加で成功させましょう。また、ロータリーデーと

して、このようにいろいろな社会奉仕活動をしているロータリーを宣伝して理解してもらいたいと思います。

◇社会奉仕委員会



委員長 古西 弘和

先ほど会長と齋藤さんからお話がありましたが、11/6に予定しております読売の「さわやか野球教室」もあと2週間と迫ってまいりました。当日、朝8時に東陽小学校グラウンドに集合いただきまして、駐車場の整備、テントの設営、テーブルセッティング等、諸々の準備がございます。昨日の委員会会議でも結構な人数が必要ではないかという話が出ております。時間の都合がつく方、できるだけ多くの会員の参加をお待ちしております。タイムスケジュール等、詳細につきましては後程、皆様にFAXする予定でございます。朝8時集合～午後1時くらいで終わる予定でございます。その後昼食をとり、午後2時ぐらいいまにかかってしまいますが、奉仕プロジェクトとして大きな事業となりますので皆さんご協力のほどよろしくお願い致します。

■ 幹事報告



①会報受領クラブ（回覧）

・成田コスモポリタンRC ・八日市場RC ・小見川RC

②ガバナー事務所より地区大会のお礼状届いております。

③ハイライトよねやま199号が届いております。

■ 委員会報告

◇ロータリー情報研修会出席報告



副委員長 鈴木 匡哉

昨日10月19日に開催された第6分区主催ロータリー情報研修会に参加しました。テーマは「ロータリーを語り、元気なクラブをつくろう」で、場所は茂原市役所でした。グループディスカッションなので全体で何か結論を出すようなものではありませんが、私の参加したグループの中で意見が活発に出たのは例会を月2回にすることが可能になった件で、傾向としてロータリー歴の長い会員さんは毎週やった方が良いという意見が多く、ロータリー歴の短い会員さんは少ない方が良いという意見が多かった様に思えます。この件については当クラブでも議論の必要があると感じました。

■ 奨学生卓話

◇米山記念奨学生について



地区米山記念奨学会委員会
委員長 富 一美

皆様こんにちは。
本日は、米山奨学生のキム・スビン君を卓話にお招き頂きまして、ありがとうございます。また、銚子RC世話クラブカウンセラーの松本様にもキム・スビン君

ご同行いただき感謝いたします。

ここで彼のプロフィールを簡単にご紹介いたしますと、まず、国籍は韓国出身です。銚子の千葉科学大学で学んでおまして、専攻は環境危機管理です。この後、彼の卓話の中でもその辺の細かいところはお話しすると思います。

さて、ここでキム・スビン君の卓話の前に米山奨学生卓話訪問の意義について少しお話しさせていただきます。この米山奨学事業は、単に金銭的な援助だけではなくて、独自の世話クラブ制度やカウンセラー制度及び9月と翌年2月の年度2回の奨学生レポートによりまして、奨学生、ロータリアン、R米山奨学会が相互理解を深めるという、ロータリーならではの「目に見える国際奉仕活動」でございます。世話クラブ経験があるクラブは、2016年8月現在、全国2264クラブ中、約86%の1947クラブが世話クラブの経験があります。又、当2790地区を見ますと、83クラブ中、95.2%の79クラブが過去に世話クラブの経験があります。過去の累計を見ますと比較的高い水準の様に思われますが、最近の傾向では、どうしても大学が都市部に近い方に集中しておりますので、遠方のクラブでは未だかつて世話クラブの経験が無く、その殆どは米山奨学生の顔をみることも出来ないまま、ひたすら寄付に励んでこの事業を支えていただいているクラブがあるのが現状であります。本年度は、83クラブ中、26名の米山奨学生ですから、世話クラブは約31%に成ります。何れにしましても世話クラブは、世話を出来ないクラブに代わって奨学生の世話をするという、大変に重い責任を担っていただいている訳でありまして、また同時に物心両面でも大きな負担と犠牲を払っていただいております。この様に、全く米山奨学生の顔も見ず、声も聞かないのでは、どうしても米山に対する親しみが湧かない、そして、支援してくれと言われても、もう一つ気乗りがしないと言われるクラブも実際でございます。この様なロータリアンの気持ちに込めようと言うのが、米山月間を中心とする米山奨学生の卓話訪問であります。

少し話が変わりますが、ロータリーの奉仕は、文字通りお金ではなくて心の奉仕でございます。

しかしながらロータリー財団と同様に、実際問題として米山奨学事業にはどうしても資金が必要です。資金なくしてはこの奉仕は成り立たないわけでありまして、ただ、この奉仕はお金さえ出せばよいというものでは決してありません。お金を出すロータリアンの奉仕の心がお金を受ける奨学生の心に通じ、また逆に、

お金を受ける奨学生の心がお金を出すロータリアンの心に響かなければならないわけでありまして。

地区委員会は、その辺のところ目的趣旨を奨学生にはしっかりと伝えて、今後とも周知に努めてまいります。米山奨学生のスピーチのテーマは、各奨学生に任せておりますが、彼らは学業の時間を割いて一生懸命に考えて日本語でお話しを致します。時に文化の違いを感じさせる内容もございますが、それも相互理解の大切なファクターとなりますのでご理解をいただきたいと思っております。米山梅吉翁の言葉に「ロータリーの奉仕は目立たないところに妙味がある」というお言葉がありますが、その心と心とは、ロータリーという世界で温かく結ばれているからでございます。

本日はロータリアンの皆さんを前にして、大変緊張していると思っておりますが、ぜひ温かい目で見守って頂けると幸いです。本日は、どうぞよろしくお願い致します。

◇奨学生卓話

「私の経験談」



金 秀斌 (キム・スビン) 君
皆さん、こんにちは！

私は、現在米山記念奨学生に所属しているキム・スビンと申します。出身国は日本ともとても近い韓国の釜山から参りました。世話クラブは銚子ロータリークラブです。本日はこの場をお借りして、自分の国と自己紹介を皆さまの前からできるチャンスをください、本当にありがとうございます。

所属している大学は銚子にある千葉科学大学の危機管理学部の環境危機管理学科で環境の勉強をしています。専攻については後でまた、詳しく説明させていただきたいと思っております。

<母国と家族>

さて、まずは私の出身地のことについて少し説明させ

ていただきますと、第2の首都とも呼ばれる釜山です。ブサンは、海がとてもきれいでまた、港が有名なところなのでいろんな外国の船舶が釜山港に入って来たり、他国に輸出するためにもとても有利な地形を持っているところ。そのような海を見て、育って来た私なので、いつも海に行くことが好きでした。幼いころから海に関連する仕事がしたいと思っていたのは、多分育って来たところの環境があったからではないかと思います。

家族構成員は、お父さん、お母さん、そして、私と二人の弟がいます。昔から、お父さんは無口でどこの家庭でもいそうな家父長的な人でサラリーマンです。しかし、最近、年を取ってからやさしくなり、家に戻るときにはいつも、何か料理を作ってくれたり、洗濯するのが好きになった、とても家庭的なお父さんになりました。お母さんは計算が早い人で保険会社を通っています。生活力がとても強いです。自分はこの二人をととても尊敬しています。それから、弟の次男は就活生で就職のために頑張っています。少し、次男のことを言いますと、自分の悩みなどがある時とても頼りになる弟で、心使いがいい弟です。末っ子は6歳下で身長は私より10cmも大きいけど、とても可愛い弟です。今は、徴兵のために、今年の9月に入隊しています。

昔から、両親は何をしなさいと言うより、子供がしたいことがあれば、支えてくれる両親だったので、他の韓国の家庭よりは少し、フリーな家族でした。

少し、幼い頃の話をする、今とは全く違う性格の人でした。いつも自身がなくて、小学校を通う時にはクラスの子たちからいじめられたり、殴られたりしました。ある日には、学校の前で理由もなく殴られたこともありました。その時、次男が駆けつけてくれて、私のことをかばってくれたのです。その日から、私の人生はこのままでいいのかと思った時、次男から“一緒にテコンドーを習おうよ。いつまでも殴られる必要はないのでは”と話ししてくれたのです。

その日、私の人生を変えるためにも、今の私を克服する必要があると思い、さっそくテコンドー道場に通い始め、一日も休まずに週5日の練習が半年経った頃、体重も正常になり、友達もできて、またクラスの子からもいじめられなくなりました。テコンドーが私に持たせてくれたのは自分に対する自信だったのです。テコンドーに通いながら、地域大会を勝ち抜き、全国大会でも入賞したおかげで、中学生になる前には、ある中学校テコンドーの監督からもスカウトされ、卒業後には運動選手として活躍できたのです。

しかし、中学2年生になってからは練習したり大会に

出るたび、いつも大けがになって、結局、腰痛になり、これ以上は運動を続けられないと思い、テコンドーを退部しました。パニックでした。今から、高等学校に行くためには2年間の空白を埋める必要があったため、とても戸惑っていましたが、テコンドーをやって来たおかげか体力は誰にも負けない自信があったので、夜遅くまで勉強をこなして進学ができました。

<日本との出会い、人生のターニングポイント>

自分の人生で第1ターニングポイントになったのは、高校生の国史の先生との出会いでした。当時、先生は韓国の歴史専門で日本と韓国の関係についてもかなり深い関心を持っていた方で、授業だけではなく、日本人と韓国人の学生との交流会も指導していました。その時が日本という国との初の出会だったのです。日本といえば、アニメしか思い出せないくらい、日本については素人と同じでした。ただ、歴史上の韓国と日本の関係について、大人たちから悪口ばかり聞いて来たせいか、日本という国についてはあまりよくない印象しかありませんでした。しかし、初めて日本という国に来た頃、道に迷っていた私に通るすがりの方が、自分も知らない道を代わりに他の人に尋ね、教えてくれたので、なんと親切な人だろうと思ったのです。また、本で読んだ日本人の性格はとても恥ずかしがり屋で話しかけにくいと書かれていたのに、それとは反対に交流会で会った日本人の学生さんは自ら積極的な姿を見せてくれたり、声をかけてくれたのです。また、ごく自然に、他人のことを気遣ってくれる優しい心遣いにも感動しました。

日本語を始めるようになったもっとも大きな理由は、恩田・陸（おんだ・りく）さんのネバランドという本を読んだから、この本を原本そのまま読んでみたいと思ったからでした。それが高校生の進路決定に大きな影響を及ぼしたのです。また、日本は海に関する研究では先進国であるアメリカにも負けないぐらいレベルが高く、昔から海に関連する科学者になりたい夢をもっていたので、もし、韓国より日本からの最先端科学技術が発表されたら、それが世界標準語である英語に訳されるまで時間もかかるし、また、すべての資料が英語化されない恐れもあるため、それなら、自分が日本語を習ってその論文を読み上げればいいのかと思います、日本語の勉強を始めたのです。そして1年後、憧れの日本での留学をはじめました。期待に胸を膨らませて来た、初めての生活、家族から離れた一人暮らしをすることに、とても楽しみにしていた私ですが、それも楽しいことだけではありませんでした。

日本に来る前には、自分の日本語がある程度上達して

いるから授業にはついていけると自信満々でしたが、授業の内容が一つも聴き取れなく、また人見知りがあった私には日本語で友達を作るとは全く無理でした。当時の1年間の思い出してみると、とても悔しい思い出しかありません。それにいつも、そばにいてくれた両親も、学校から帰ってきてゲームで大喧嘩になった弟たちも、その場にはいなかったのも、当時、家族の大事さを痛感したものです。

1年後、韓国人の男なら国家の義務のために、徴兵に行かなければならず、さっそく留学の生活を片付けて一旦韓国に帰りました。その日に、私はある決意を固めたのです。“絶対、大学に復学した時には1年生の時と同じ間違えを繰り返さないように、日本語をもっと磨こう！”決めたのです。帰国してから、すぐ海軍に入隊しました。

昔から海が好きで、自分は海軍に行くことにしました。おそらく、この場にいらっしゃるロータリアンの皆様は、この話に一番興味があるかもしれません。

現在、所属しているゼミの先生からも軍隊の話についていろいろ聞かれました。その時質問されたのが、“軍隊は大変ではなかったの？訓練も大変でしょう？”など、いろいろ尋ねられたのです。他の人はどう思われるかわかりませんが、韓国に興味を表してくれた先生には、私は本当にありがたいと思いました。もちろん、これは喜ぶ話しではありませんが、それでも話をさせていただきました。

21世紀の現在でも、世界では戦争が起っています。例えば、韓国は北朝鮮の挑発にいつ戦争が起きてもおかしくない日々を送っています。国際問題としては、日本と韓国の竹島、慰安婦問題、日本と中国は尖閣問題など、歴史的にも領土的にも日韓中はいつもこの問題をおいて話題になっています。私が米山記念奨学生になってから、この団体の中枢にある精神として一番習ってよかったのは、世界平和でした。国の理息はもちろん重要ですが、お互いに協力し合い、分け合えば、このような争いもなく平和に過ごせることが出来るたではないかと私は思うのです。

現在、韓国、日本、中国、この三国が協力しあえば、アメリカのような先進国も追いかけるのではないかと思います。自国の理息とか理念だけを主張するのではなく、これからは、お互いの話にも耳を向け合いながら、理解し合い、一緒に発展していくこと求める必要があると私は思うのです。現在、日本で奨学生として活躍している奨学生の数は740人、これだけの人数があらゆる目標や夢をもって日本に渡り来て、日々努力しています。

将来、この学生たちが日本を中心に母国のネットワークを繋げようとする大事な人材になると、僕は思っています。そのために、私は現在、理事会に入っただけでもっとロータリーの理念を広く伝えるのか、奨学金の期間が終わってからもロータリアンとして活躍するために、学友会をどうすれば活発的にさせられるかなどを工夫しています。将来、日本と韓国だけではなくいろんな国と国などがロータリーの精神を習い、広げられ、政界の平和に導くように努力したいと思っています。

現在、米山奨学会の支援があるおかげで、1年前より自分の研究や勉強また、いろいろな野外活動にも力を入れることができたことに本当に感謝しております。このチャンスを生かして自分の夢のために日々努力をしています。

☆どんな研究をしているか？

先ほど、専攻の研究について、後で説明すると話しましたが、卒業論文のテーマは利根川の河川の変化です。人間にとって、水がとても重要な資源であり、日常生活にあって欠かせないものです。特に日本の場合、利根川の流域内には日本人口の10%の1200万人が生活しています。利根川について少し説明すると日本国内で長さでは2番目、流域面積は1番目であって、自然が豊かで水生生物や渡り鳥の餌場、日本ウナギやヤマトシジミなど水産資源はあふれるほど自然豊かな場所です。それに、江戸時代にはもの今の東京に運ぶために船が運送をするために使われていた川だったのです。しかし、稲農業が始まり、淡水化するためにダムを建設し海水が逆水することを防いであらゆる環境変化・生態系の構造も変わりました。例えば、ヤマトシジミが取れなくなったり、夏になると富栄養化現象が起こって、水が臭くなるとか。そこで、私がやろうとしている研究は今まで調査が行われた利根川が現在どのように変化し、水質は変わっていたのか、生態系の変化など過去の調査と比較したいと思って、月1回は利根川に船を乗り、採水をして、プランクトンを取っています。この研究が一体どこに使われると疑問に思う方が多いと思います。ようするに、河川の変化を注目してこの先、どのように変化していくのだろうかを私は知り、予測したいのです。これ以上悪化されないようにどうすればいいのかを考えるのはそれからだと思っています。

☆将来の夢

将来、私は河川や海洋の自然を守る研究員になることです。地球温暖化や地球規模のレベルで頻繁に起こっている自然災害や環境汚染により、地球の上で生活している私たちと動植物が生きていける生息地がなくなってい

ます。また、環境汚染によって病気に苦しんでいる人々もまだ、この地球の上ではとても多いのです。今年の7月で発行されたロータリーの友の中で、今年のRI会長に就任なされたジョン・F・ジャームさんがポリオ発症について言及したことを読ませていただきました。1979年からロータリーがポリオ撲滅のため長年支援してきて、やっと2015年になってから、発病件数が74件まで下がり、もう少しでポリオ撲滅を目前にしていると報告した記事を読んだこともあります。自分の将来について、私は環境の専門家になりたいと申しました。しかし、私の最終的な夢はいつか、かならずロータリーが成し遂げたポリオ撲滅のような世界貢献をしたいと思っています。

現在、私はまだそのようなことはできません。これからもいろいろな経験をしましょう、大変な経験もしましょう。挫折もするかもしれません。しかし、私には自信、協調性、忍耐力、この3つがある限り、絶対ゴールに届くまであきらめません。人生とは楽しいときも、苦しい時もあるからこそ、小説のように楽しめるのではないかと思います。

☆ロータリーとの関わり

最後に、この前ロータリー銚子クラブ、東クラブから千葉科学大学で主催した新入生歓迎会の時、皆さんの前で一言言わせていただきました。“一期一会（いちごいちえ）”、それは人生の中で仕事であれ、縁であれ、一回しかないチャンス、その瞬間を大事にしろという諺です。私の人生で皆さんとの出会いは、まさに一期一会、この絆を米山学友として一生続けたいと考えています。未熟な私の経験談でしたが、最後まで聞いてくださってありがとうございます。それでは、私の卓話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。



会員からキム君へ要望、質問がありました



銚子ロータリークラブ

カウンセラー 松本 恭一 様

キム君のカウンセラーをやらせて頂いております松本です。ごらんとおりキム君は非常に好青年でして、何事にも前向きでカウンセラーとしては非常に楽で、かえって私の方がキム君から刺激をもらって、いろいろ学ばせてもらってます。カウンセラーをやらせて頂いて非常に良かったと思っております。

ニコニコボックス

青柳誠君・土屋俊夫君・前川成吉君・行木英夫君
 ・市原豊彦君・伊藤元雄君・高田一行君・渡邊孝文君
 ・倉石昌治君・花澤昇一君・上原広嗣君
 …キムさん松本さんようこそいらっしゃいました
 キムさん熱心な卓話をありがとうございます
 これからもテコンドーで鍛えた精神力で夢に向かって頑張ってください

富一美君

…息子の結婚お祝いありがとうございました

安藤卓造君

…玉のような孫が生まれました

松本恭一様より

…今日は金君と一緒におじゃまさせて頂きました
 大変フレンドリーな例会で感動致しました

本日計	25,000 円
累計	274,002 円

出席報告

例会日	会員数	出席	出席率に用いる数	%
10月20	36	23	31	74.19

☆ 欠席をしたらメーカーアップをしましょう ☆